

## 第2章 他分野調査との共通設問の結果概要

### (1) 近所づきあいの現状について

(一般市民調査(問2)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問45)、要支援・要介護認定者調査(問20)、障害等のある人への調査(問24)、子どもの育ちや発達に関する調査(問27))

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、要支援・要介護認定者調査(利用者)及び要支援・要介護認定者調査(未利用者)は、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が最も多く、一般市民調査、要支援・要介護認定者調査(施設入所者)、障害等のある人への調査、子どもの育ちや発達に関する調査は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が最も多くなっている。
- ・「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合は、子どもの育ちや発達に関する調査で20.7%と最も高く、次いで要支援・要介護認定者調査(未利用者)で17.0%、要支援・要介護認定者調査(利用者)で15.6%と続いている。

図表 近所づきあいの現状(全体)

(%)

			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答	
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	9.3	33.5	43.6	5.9	7.0	0.8	
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	13.0	42.1	34.1	4.9	3.2	2.8	
	要支援・要介護認定者調査	利用者	(n=1,223)	15.6	35.3	32.1	6.6	5.0	5.4
		施設入所者	(n=361)	6.9	21.6	23.3	10.5	11.6	26.0
		未利用者	(n=418)	17.0	43.8	24.2	5.0	4.3	5.7
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	7.6	19.5	34.9	11.6	12.4	14.0	
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	20.7	30.4	34.5	8.0	4.9	1.5	

(2) 近隣で手助けできること、地域で頼まれたらできることについて

(近隣で手助けできること：一般市民調査(問4)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問47)  
 地域で頼まれたらできること：障害等のある人への調査(問26))

- ・近隣で手助けできることは、一般市民調査では、「日常の見守りや声かけ」(61.0%)が最も多く、次いで「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」(52.3%)、「話し相手になること」(37.0%)と続いている。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、「日ごろの安否確認」(34.5%)が最も多く、次いで「ちょっとした買い物」(20.3%)、「災害時の手助け」(15.9%)と続いている。
- ・地域で頼まれたらできることについて、「できる」の割合は、障害等のある人の調査では、「安否確認の声かけ」(52.3%)が最も多く、次いで「具合がよくないときに、病院等に連絡する」(43.0%)、「ちょっとした買い物やゴミ出し」(40.3%)と続いている。

図表 近隣で手助けできること(全体：複数回答)

(%)

			日常の見守りや声かけ	話し相手になること	悩みごと、心配ごとの相談にのること	ちょっとした家事(買い物、ゴミ出しなど)	掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	短時間の子どもの預かり
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	61.0	37.0	20.9	23.8	7.5	12.9
			保育園・幼稚園などの送迎	外出や通院時の付き添い	病気のときの看病	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	無回答	
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	9.3	9.5	4.4	52.3	19.6	

図表 近隣で手助けできること(全体：複数回答)

(%)

			日ごろの安否確認	趣味など世間話の相手	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	ゴミ出しなどの家庭支援	電球交換などの簡単な作業
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	34.5	14.5	4.9	20.3	10.6	8.8
			炊事、洗濯、掃除などの家事	介護が必要な家族などの預かり	外出の付添い	災害時の手助け	無回答	
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	2.8	0.6	3.2	15.9	46.4	

図表 地域で頼まれたらできること（全体）  
（「できる」の割合）

								(%)
			安否確認の 声かけ	話し相手や 相談相手	ちょっとした 買い物や ゴミ出し	食事や掃 除・洗濯の 手伝い	子どもの預 かり	通院の送迎 や外出の手 助け
障害者福 祉分野	障害等のある人への 調査	(n=1,419)	52.3	38.7	40.3	23.2	15.9	19.7
			具合がよく ないとき に、病院等 に連絡する	災害時避難 の手助けの 準備				
障害者福 祉分野	障害等のある人への 調査	(n=1,419)	43.0	30.6				

### （3）近隣で手助けしてほしいこと、地域で頼みたいことについて

（近隣で手助けしてほしいこと：一般市民調査（問4）、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（問47）  
地域で頼みたいこと：障害等のある人への調査（問26））

- ・近隣で手助けしてほしいことは、一般市民調査では、「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」（34.5%）が最も多く、次いで「日常の見守りや声かけ」（19.6%）「話し相手になること」（8.7%）と続いている。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、「災害時の手助け」（23.6%）が最も多く、次いで「日ごろの安否確認」（20.6%）、「ちょっとした買い物」（14.7%）と続いている。
- ・地域で頼みたいことについて、「頼みたい」の割合は、障害等のある人への調査では、「安否確認の声かけ」（53.8%）が最も多く、次いで「災害時避難の手助けの準備」（42.6%）、「具合がよくないときに、病院等に連絡する」（41.6%）と続いている。

図表 近隣で手助けしてほしいこと（全体：複数回答）

								(%)
			日常の見守 りや声かけ	話し相手 になること	悩みごと、 心配ごとの 相談にのる こと	ちょっとした 家事（買 い物、ごみ 出しなど）	掃除、洗 濯、食事の 用意の手伝 い	短時間の子 どもの預か り
地域福祉 分野	一般市民調査	(n=1,380)	19.6	8.7	6.6	5.8	3.5	6.4
			保育園・幼 稚園などの 送迎	外出や通院 時の付き添 い	病気のとき の看病	災害時など 非常時の安 否確認や避 難の手助け	無回答	
地域福祉 分野	一般市民調査	(n=1,380)	3.8	3.0	3.8	34.5	53.0	

図表 近隣で手助けしてほしいこと（全体：複数回答）

(%)

			日ごろの安否確認	趣味など世間話の相手	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	ごみ出しなどの家庭支援	電球交換などの簡単な作業
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	20.6	4.7	6.1	14.7	6.2	8.3

			炊事、洗濯、掃除などの家事	介護が必要な家族などの預かり	外出の付添い	災害時の手助け	無回答
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	5.6	0.8	3.6	23.6	52.7

図表 地域で頼みたいこと（全体）  
（「頼みたい」の割合）

(%)

			安否確認の声かけ	話し相手や相談相手	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事や掃除・洗濯の手伝い	子どもの預かり	通院の送迎や外出の手助け
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	53.8	29.9	23.6	18.3	10.3	24.1

			具合がよくないときに、病院等に連絡する	災害時避難の手助けの準備
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	41.6	42.6

### (4) 悩みや困りごとを相談できる人の有無について

(一般市民調査(問10)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問61)、障害等のある人への調査(問12)、子どもの育ちや発達に関する調査(問28))

- ・「いる」の割合は、すべての調査で8割以上となっているが、特に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は92.8%と高くなっている。

図表 悩みや困りごとを相談できる人の有無(全体)

			(%)		
			いる	いない	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	83.3	14.2	2.5
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	92.8	2.3	4.9
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	84.5	11.5	4.0
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	87.7	10.8	1.5

### (5) 認知症に対するイメージについて

(一般市民調査(問26)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問37))

- ・一般市民調査は、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が38.6%で最も多く、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が36.5%で最も多くなっている。
- ・「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合は、一般市民調査は38.6%、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は23.5%と15ポイントの差がある。

図表 認知症に対するイメージ(全体)

			(%)					
			認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用が必要になる	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	6.2	36.6	38.6	4.0	9.0	5.6
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	11.8	36.5	23.5	3.6	12.2	12.3